

図書館だより



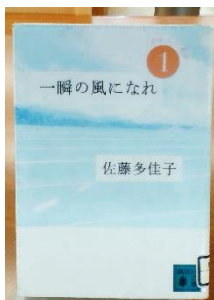
武雄高校 図書指導部
令和6年7月31日発行
第5号

今回の図書館だよりは1年5組石内瑛湖と井手樹が作成しました。

**頑張れ運動部！ スポーツと読書の相性を探るための
❀運動が主題のおすすめ本 Select ❀** です。

●『一瞬の風になれ』以外は注文中なのでもうしばらくお待ちください

『一瞬の風になれ』 著者【佐藤多佳子】（講談社文庫）



おすすめの理由

高校に入学した新二は天才スプリンターである親友の連の誘いで陸上部へ入部し「どこまでも速くなること」を目指して仲間と練習の日々を過ごす。青春陸上長編小説。これから陸上部に始める学生さんには是非読んでほしい名作だと思っています。

『マイナスヒーロー』 著者【落合由佳】（講談社）



おすすめの理由

プレイヤーとしての道を諦めた久能風には、ヒーローがいた。幼いころから自分を見下して来た兄・航に打ち勝った少女・羽野海。しかし以前眩しかった彼女は、万年準優勝の「シルバーヒーロー」と揶揄されるようになっていた。中学生になり再会した海から、風はひとつの願いをされる。

『跳べ、暁！』 著者【藤岡陽子】（ポプラ社）



おすすめの理由

14歳の春野暁は、田舎町へ引っ越してきた。母親を病で失い、気力を無くした父親は会社を辞めてしまった。バスケットに情熱を注いできた暁だが、転校先の平川中には女子バスケット部はない。周りはみんな初心者でルールもよくわからず、練習場所にも困る始末で……。

『凜として弓を引く』 著者【碧野 圭】（講談社文庫）



おすすめの理由

高校入学目前、矢口楓がふと足を踏み入れた神社の片隅にみつけた弓道場。大人たちに交じって弦音を響かせる少年の凛々しい姿に魅せられ、その弓道会に入門することに。人見知りの女子高生が日本古来の弓道の奥深い魅力に目覚め、新しい世界の扉を開いていく！

❀おすすめ小説❀

おすすめの本を紹介します！！

『成瀬は天下を取りに行く』 著者【宮島 未奈】

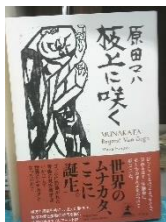
2020年、中2の夏休みの始まりに、幼馴染の成瀬がまた変なことを言い出した。コロナ禍に閉店を控える西武大津店に毎日通い、中継に映るというのだが……。M-1に挑戦したかと思えば、自身の髪で長期実験に取り組み、市民憲章は暗記してしまう。今日も全力で我が道を突き進む成瀬あかりから、きっと誰もが目を離せないそんなお話です。この本にはシリーズがあるのでぜひ興味がある方は図書館まで足を運んでみてください！



☆☆新着図書案内☆☆

『板上に咲く MUNAKATA:Beyond Van Gogh』

【原田マハ 著】（幻冬舎）



「ワあ、ゴッホになるッ！」1924年、画家への憧れを胸に裸一貫青森から上京した棟方志功。しかし、絵を教えてくれる師も、画材を買うお金もない。その上、弱視のせいで遠近感をうまく表現できず、帝展に落ち続ける日々。そんな彼が辿り着いたのが木版画だった。「版画」が引き金となり、棟方は日本の、世界の版画界を劇的に変えていく。棟方と苦楽を共にし、支えた妻・チヤ。無尽の愛と激動の時代を描く、待望の書き下ろしアート小説。

『舞い散る桜にあなたを想う』【安里紬 著】（文芸社）

「毎年、二人で見る桜はきれいだろうな。」

“普通”でありたいと望む彼女と“奇跡”をおこしたいと願う彼。

命とひたむきに向き合う二人の切なく儚い恋の行方はー。

結末を知ったら、きっと最初から読み返したくなる。



『境界のメロディー』【宮田俊哉 著】（KADOKAWA）



メジャーデビュー目前にして相方のカイを事故で亡くしたキョウスケは、音楽から距離を置き無気力に生きていた。しかし事故から三年、突然カイがキョウスケの前に現れる。「生きていても、何もやらずに止まったままだったら、死んでのと一緒にじゃん。」

生前と変わらない歯に衣着せぬ物言い。そして思わずつられて笑顔になってしまう強引さ。キョウスケはカイに説得され再び音楽の世界に向き合い、共に音を重ねる喜びを感じる。でも、カイとの幸せな時間は永遠ではなくてー。

『こまどりたちが歌うなら』【寺地はるな 著】（集英社）

涙はしょっぱい。お菓子は甘い。親戚が営む小さな製菓会社に転職した茉莉は、コネの子と呼ばれながらも、会社の古いルールを変えようと格闘するが……。あなたが生きる“今”に光を灯す、希望の物語。



『日本列島はすごい 水・森林・黄金を生んだ大地』【伊藤孝 著】（中央公論新社）

1万4千の島々が連なる日本列島は、ユーラシア大陸の東縁でその土台ができ、やがて分離。3万8千年前に人類が上陸し、歴史を紡いできた。変化に富んだ気候が豊かな資源を生み、国土を潤す。本書は、時空を超えて島国の成り立ちと形を一望し、水、火、塩、森、鉄、黄金が織りなした日本列島史を語り直す。天災から命を守り、資源を活かす暮らしとは。

地学教育の第一人者が、列島で生きる醍醐味をやさしく解説する。



『日ソ戦争 帝国日本最後の戦い』【麻田雅文 著】（中央公論新社）



日ソ戦争とは、1945年8月8日から9月上旬まで満洲・朝鮮半島・南樺太・千島列島で行われた第2次世界大戦最後の全面戦争である。短期間ながら両軍の参加兵力は200万人を超え、玉音放送後に戦闘が始まる地域もあり、戦後を見据えた戦争だった。これまでソ連の中立条約破棄、非人道的な戦闘など断片的には知られてきたが、本書は新史料を駆使し、米国のソ連参戦要請から、各地での戦闘の実態、終戦までの全貌を描く。

『嘘』【北國浩二 著】（PHP 研究所）

『カミガカリ』【八女深海 著】（小学館）

『パパイヤ・ママイヤ』【乗代雄介 著】（小学館）

『ハリネズミは月を見上げる』

【あさのあつこ 著】（新潮社）

『エンド・オブ・ライフ』【佐々涼子 著】（集英社）

『ネットはなぜいつも揉めているのか』

【津田正太郎 著】（筑摩書房）

『笑うマトリョーシカ』【早見和真 著】（文藝春秋）

『頭の良い人が話す前に考えていること』

【安達裕哉 著】（ダイヤモンド社）

『もし徳川家康が総理大臣になったら』

【真邊明人 著】（サンマーク出版）

